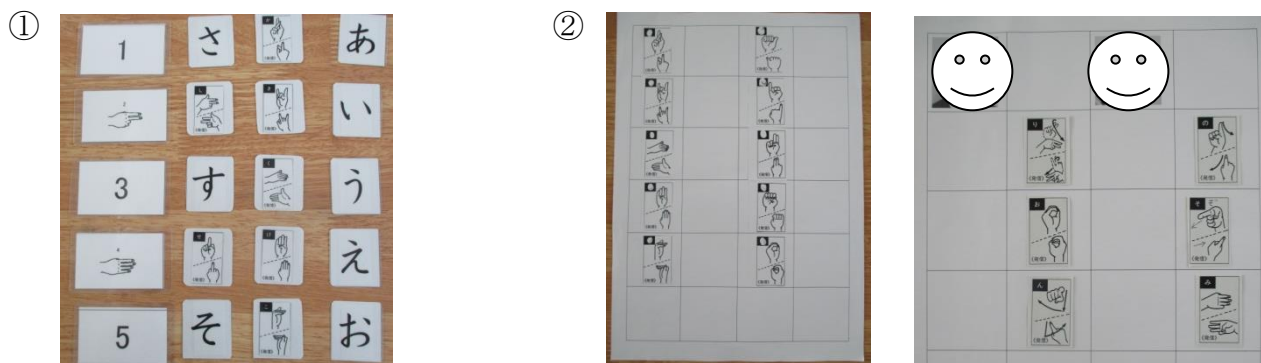


主に関係する 領域・教科	自立活動	氏名：坂下 真奈美
教材・教具名	ひらがな指文字 一石二鳥！	
ねらい	ひらがなと指文字を一緒に覚えやすくできる	

教材教具の説明（写真等を使ってわかりやすく記述）

- ①かなカードの裏に指文字サインを付ける。
 - ・指文字サインの発信（自分が示すサイン）と受信（相手から見たサイン）を示す。
- ②指文字プリント（指文字をみてひらがなを書く。友だちの名前の指文字をひらがなで書く）



制作のポイント	使用材料・部品
<ul style="list-style-type: none"> ①・机上で扱いやすい、大きさのカードにする。 ②・指文字部分のひらがなを消したプリントを制作、50音順より書くことができるようにする。習得に応じて、変えていく。 ・名前プリントは、友だちの名前を指文字で覚え始めるため、ひらがなを記載しておく。 <p>☆ 本人の習得に応じて、プリントの形式を変える必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなプリント ・指文字記号 ・ラミネート

実践	<p>①入学当時、あ行の指文字は習得できていた。教師がひらがなカードを提示すると、明確な指のサインは覚えることができた。しかし、「め、ぬ。」「は行」など本人にとってわかりにくい文字は指文字の習得にも多少時間がかかった。そこで、負けず嫌いな面や、リーダーシップを取りたがる性格をみて、本児に教師役を勧めた。あえて教師は、本児が苦手とする文字を間違える事で、本人が自信な様子で答える事ができ習得につながった。②50音順の並びで覚えている点もあるが、文字を書く練習にも結びつくと考えられる。友だちの名前は、あさの会での係の名前呼びで、友だちからの手話の要望も出始めた事がきっかけとなり、習得のチャンスと考えている。</p>
効果・改善点等	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなと指文字が両面のため、示した指文字の回答がすぐわかる事が習得につながった。教師も一緒に覚えることができた。 ・一文字ずつの提示により、発声する場面も増えてきた。 ・手話で示す単語と、指文字で表す単語が場面によって変わってくると思われるが、今後は物の名前（くだもの、動物、用品など）指文字カードを使っていく場合カードが一目でわかるようなものに作成する必要があると思った。